

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290900034		
法人名	有限会社 嶋野商事		
事業所名	グループホームつがる		
所在地	青森県つがる市木造吹原西前田21-18		
自己評価作成日	平成30年7月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成30年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気、自宅に居る時と同じように過ごせるように支援しています。 また、ホームは天井が高いため、夏は涼しく、冬は暖かく、過ごしやすい環境の中で、安定した気持ちで過ごせるように支援していきたいと思います。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員は毎朝の申し送り時に、ホーム独自の理念を唱和した後、利用者一人ひとりの居室に行き、挨拶や声がけ等を行い、利用者に寄り添ったきめ細やかな介護に努めている。 ホーム内は天井が高く、木目調の吹き抜けからは自然光が入り、ゆったりとした空間を醸し出している。また、手作りのアルバムやイベント等、工夫を凝らしながら、やすらぎと安心感の持てる生活支援等に取り組み、理念を意識したサービスを提供している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務に入る前にホームの理念を読み上げ、気持ちを切り替えています。また、職員が協力し合って、理念に沿ったケアができるように努めています。	地域に24時間対応の介護相談窓口を作りたいという思いから設立したホームであり、設立当初から掲げている9項目倫理をホーム独自の理念と捉え、毎朝、全職員で唱和後、業務に入っている。理念には「地域住民の一員として生きていけるように支援します」との箇所があり、共有や役割を反映させた日々のサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の美容室の利用のほか、近くに来た方や新聞配達の方と気軽に言葉を交わして、地域との繋がりを大事にしています。	町内会長や民生委員、老人クラブや商店等の地域資源に関わりながら、ホームを理解してもらおうと共に、交流を図るための働きかけを行っている。また、市の祭りや地元の神社等へ出かける等、地域住民との関わりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	プライバシーの問題もあり、ボランティアの受け入れ等には至っていませんが、運営推進会議の際、自治会長や老人クラブ会長、民生委員、居宅介護支援事業所等に対して、ホームでの活動を説明する等、ホームの役割を通して社会貢献をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域を代表するメンバーの方々や有識者代表として他事業所を運営している方にも参加していただいております。同法人の居宅介護支援事業所やデイサービスセンターからも参加してもらい、利用者さんの様子やホームでの活動等を報告し、意見を交換しています。また、会議の内容は職員にも報告し、業務に活かすようにしています。	市担当課職員や自治会長、民生委員、老人クラブ会長、地域の介護事業所、利用者、家族等がメンバーとなり、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、ホームの報告やメンバーからの情報提供、地域の情報等の意見や助言があり、今後のサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市担当職員に参加していただき、その時に出された意見やアドバイスを参考にし、取り入れられるのものは取り入れるようにしながら、協力関係を築けるように取り組んでいます。	運営推進会議に市担当課職員が参加しており、ホームの実情を理解していただいている。また、分からないことについて相談や確認をし、助言や指導等をいただきながら課題解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある利用者さんが不穏な状態になった時は、職員同士で声をかけ合いながら見守りをする事で、施錠は行っていません。また、歩行介助が必要な方が落ち着かなくなり、職員の目が届かない時は、車椅子に移乗して見守りする時がありますが、なるべく職員同士で声をかけ合い、見守るようにしています。	身体拘束に関するマニュアルを備え、内部・外部研修等で定期的に学習しており、管理者や職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。また、身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアをしているが、やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族等に説明を行い、記録や同意書を取る体制を整えているほか、職員の見守りや近隣住民、自治会長、民生委員の協力が得られる環境となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、「虐待は絶対にしない」という認識を持って業務に取り組み、虐待を見過ごすことがないように注意を払い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して、成年後見制度について学んでおり、今後、利用したい方が居る場合は、関係機関と協力しながら支援していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時は契約書等を通してホームの説明を行い、質問等がないか確認し、質問があった場合はその都度、説明しているほか、退所時の内容についても入所契約書等を通して説明しています。また、利用内容に変更があった場合は早目にお知らせし、変更前に再度、説明を行い、ご理解いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と面会する時は、必ず利用者さんのホームでの様子を報告し、毎月、手紙にまとめてお渡ししています。その時に質問や要望がないか確認し、ある場合は、ご家族様と相談して決めています。その時の内容は職員にも伝え、統一したケアを行い、経過を全職員が知ることで、より良い介助ができるようにしています。	運営推進会議への参加や重要事項説明書に明記し、入所契約時に利用者や家族等に第三者機関があることを伝え、外部に意見等を表せる環境を整えている。また、出された意見等は随時、管理者や職員で話し合い、対応策を検討して、速やかな対応を行う体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場を心がけ、勉強会等を通して、意見や提案を聞く機会を設けています。また、利用者さんと良好な関係を築いている職員には、その関係を大事にしてケアに取り組んでもらっています。	毎月勉強会を開催し、テーマ学習やホームの運営方法、利用者の受け入れ等の決定事項について、職員の意見を聞く機会を設けており、職員の意見を反映させるように取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から適時、報告を受け、職員の思いや状況を把握するようにしています。また、給与のベースアップや労働日の調整等を行い、職員同士が協力し合いながら、楽しく働ける環境を作れるように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内で勉強会を行う等、職員一人ひとりが向上心を持って取り組める環境づくりを心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅介護支援事業所やデイサービスの職員、他法人グループホーム経営者に運営推進会議へ参加してもらい、その時の意見を取り入れながら、サービスの質を向上できるように取り組んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に思いを引き出せるような聞き方をしたり、利用者さん同士の会話から思いや要望を汲み取って、他職員にも伝え、その思いに応えられるように努めています。また、安心して生活ができ、良い関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時には、ご家族様の気持ちに同調し、信頼関係を築けるように意識して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんやご家族様の希望を確認しながら、必要としている支援を見極め、希望に沿えるような介護計画を立てています。また、困難な時は職員の意見も参考にし、対策を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お盆拭きや洗濯物畳み等、利用者さんができる事は手伝ってもらっています。「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え、利用者さんに自分の存在感を感じてもらえるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には些細な事でも報告し、アドバイスをいただく等、共に利用者さんを支えられるような関係を築いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た時は居室でゆっくりと過ごせるようにしています。また、普段の会話で利用者さんに行きたい場所を尋ね、自宅に近い場合はご家族様にも相談し、了解を得るようにしています。帰宅願望が強い方は、ご家族様がこっそりと利用者さんの元気な様子を見ることができるように対応しています。	家族等の面会時を利用しながら、利用者一人ひとりがこれまで関わってきた方や理容院・美容院等の馴染みの場所を把握している。また、全職員で情報交換をしており、日々のコミュニケーションの中でも把握に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、全利用者さんがホールに出てきて、テレビを見たり、会話をする等、一緒に過ごしています。また、レクリエーション活動では得意・不得意があるため、お互いに手伝ったり、教え合ったりすることで良好な関係を築いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんが退所後もご家族様から気軽に声をかけていただき、退所後のことを報告してくださる等、良好な関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんが望む生活の場でありたいと思い、支援しています。また、困難な時は利用者さんが納得できるように工夫や助言し、ご家族様にも相談しています。	職員は日々の会話を大切にし、利用者の表情等を観察して、思いや希望を把握するように努めている。また、必要に応じて家族や関係者等から情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者さんやご家族様、関係者等から聞き取りをし、情報を収集しています。入所後もご家族様にホームでの様子を報告し、自宅に居た頃はどうか等、新たな情報も得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護から気付いた事や思った事について、申し送りを行い、話し合いをしながら、利用者さんの心身の状態を把握できるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様にホームでの様子を伝え、検討したい事については、自宅に居た頃の様子を聞き取りして、今後について相談しています。また、職員にも報告し、話し合いを行い、現状に合わせた介護計画を作成しています。	利用者がその方らしく暮らし続けることができるように、アセスメントを詳細に行い、利用者や家族等の意向を確認し、個別具体的な介護計画を作成している。また、毎日のケアを通して観察しているほか、家族の希望等に変化がないか、面会時や電話を利用して把握し、毎日の申し送りで報告や確認に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても分かるように詳しく記録し、思った事や感じた事も記録しています。それを基に職員で話し合い、介護計画に反映させるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の心身の状況に合わせて、介護・支援をするようにしています。他機関のサービスも参考にしながら取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で、地域と関係機関に情報の提供と協力をお願いしており、得た情報と地域にどのようなサービスがあるのか調べ、外部の方との繋がりを持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は利用者さんやご家族様の意向で、自宅に居た時と同じ病院に通っているため、かかりつけ医とも連携を図っています。また、その他に受診が必要な場合は、ご家族様にも相談しながら病院を決め、受診結果を報告しています。	利用者のこれまでの受療状況を把握し、適切な医療を受けられるように支援している。また、通院介助はホーム対応で、入所以前からの主治医への継続受診を支援しているが、今後は家族等へ協力を働きかける思いがある。また、受診結果の伝達方法も家族等の納得を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置しておりません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院先の病院に情報提供を行い、ご家族様も交えた治療方針の話し合いの場に職員も参加しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、利用者さんの状態が重症化した場合、状況によってはホームでの暮らしの継続が困難な場合もあることも伝えており、次の受け入れ先の確保と入所できるまでの支援を継続することを説明しています。	入所契約時に重度化した場合は、状況に応じてホーム内での生活が困難になることや次の受け入れ先を探す支援について伝えている。また、ホームや利用者、家族等と話し合い、入所中の健康管理や急変時の対応方法について、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の介護現場で、事故発生時のケアの仕方を伝えています。また、実務や勉強会、マニュアル等を通して、実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員を交えて、年2回、避難訓練を行っています。避難訓練後は職員が消火器を使った消火訓練も行っています。また、水害時等の避難経路はマニュアルを通して共有し、自治会長等に協力を仰ぐ等、地域との協力体制を築いています。	年2回、消防署指導のもと、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。職員は避難誘導策や役割分担、災害時のマニュアルを共有しており、時間も測定しながら、利用者と一緒に訓練に取り組んでいる。非常災害時に備え、寒さをしのげる毛布や暖房等のほか、食料や飲料水は消費期限を明記して用意している。また、運営推進会議の委員との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんは人生の先輩であるという意識を持ち、馴れ馴れしくならないように言葉遣いに気をつけています。また、プライバシーに配慮した対応にも心がけています。	職員は介護時や声がけ時は羞恥心やプライバシーに配慮し、入浴時の脱衣所のドアの開閉や排泄時の声がけ等、状況に合わせて場所を変える等の対応をしている。また、ホーム全体で日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問する際は利用者さんの気持ちを引き出せるような声がけをし、表情からも読み取るようにしています。また、日頃からコミュニケーションを図り、本心が言えるような環境づくりを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの希望に沿うような支援を心がけていますが、難しいと思われた場合は、早目に説明し、それに代わる提案をしています。なるべく希望に近づけるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は一緒に服を選び、明るい気分で過ごせています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はその日のメニューから会話の幅が広がり、楽しく食事ができています。手伝い等、できる事が少なくなってきましたが、できる利用者さんが他の利用者さんの準備を手伝ってくれるため、感謝の気持ちを伝えていきます。	職員が献立作成と調理を行い、敷地内にある畑で採れた野菜や新鮮な食材を提供している。入所時に嗜好の確認を行い、苦手な物の時は代替食を提供している。また、職員は食事中的会話を楽しみながら、さりげないサポートを行っており、利用者の状況や意思等に応じて、テーブル拭きや後片付け等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックは毎回行い、摂取量が少なく、状態が気になる場合は病院を受診し、医師に報告・相談しながら、指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる利用者さんも歯磨き、うがいが終わった後に確認をしています。自力でできない利用者さんや磨き残しがある利用者さんは、職員が介助を行い、口腔内の清潔を保持できるように支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	認知症の進行や病気の影響で失禁が増えている利用者さんもありますが、失禁があっても定期的に声がけや誘導を行い、トイレでの排泄を維持できるように支援しています。	利用者の排泄パターンを記録・把握し、事前誘導を行いながら、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、紙オムツの使用や尿取りパッドの使用等、継続するか否かの見直しを随時、行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い運動や体操をし、水分も多めに摂り、便秘を予防しています。それでも排便のない時は、処方されている下剤を服用し、排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は週4回あり、週2回は入浴できるようにしています。また、入浴しながら利用者に工夫しながら声がけすることで、定期的に入浴できており、清潔に過ごすことができます。	職員は利用者一人ひとりの入浴習慣や好みを把握し、週4回入浴日を設け、週2回は入浴ができるように利用者の体質や希望に合わせて支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんは起床時からホールへ出てきて過ごしていますが、昼食後は体調も考慮し、体を休めてもらっています。また、就寝時間も利用者さん一人ひとり違うため、それぞれの生活リズムに合わせて休息できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は職員間で申し送りを行ない、利用者さんの様子に変化がないか観察しています。また、服薬についても飲み忘れや飲み間違いがないか、職員2名で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	教師だった利用者さんはカルタの読み手等を張りきって行い、進行してくれたり、引っ込み思案な方に声をかけて参加を促したりもしてくれます。また、身体的に不自由な利用者さんは職員と共に行う等、全ての利用者さんが参加し、気分転換を図れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出計画は、利用者さんの希望と身体状況に無理がないかを判断しながら作成しています。また、普段から利用者さんの様子をご家族様に報告し、ご家族様の協力を得ながら支援したいと思います。ご家族様の意向で急に外出することになった利用者さんは、帰宅時は喜んで帰って来ています。	天気の良い日はホーム周辺を散歩しているほか、日常の会話の中から利用者の希望を把握し、家族等の協力を得ながら外出を支援している。ホームは、年間の行事計画を作成しており、担当職員が詳細に計画することで、季節毎のドライブ等を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の意向もあり、全利用者さんが金銭は所持しておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に出ても聞こえないこと等があるため、自ら電話をすることはなく、手紙を書くこともありません。以前できた事も徐々にできなくなっていますが、制作活動等を通して、ご家族様に気持ちを伝えられるように支援していきたいと思っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は季節を感じられるような飾りつけをしています。また、利用者さんの普段の様子をの写真を掲示し、ご家族様は面会に来た際に喜んで見えています。ホール内に温湿度計を置き、風通しを良くし、快適な空間となるように工夫しています。	ホール内は利用者が好きな場所でくつろげるようにソファを配置し、木目調の吹き抜けからは自然光が入り、ゆったりとした空間となっている。また、共有空間に温・湿度計を設置し、適切な空調を保っているほか、ホール内には利用者が季節を感じるができるような装飾を行い、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ席とテーブル席があり、ほとんどの方がソファ席で過ごされています。動ける方は自由に移動して、介助が必要な方は希望する場所に座ってもらい、利用者さんが思い思いに過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院を退院後、そのまま入所する利用者さんが多いため、自宅で使っていた物等を持って来る方は少なく、ご家族様も新しい物を使わせたいと思っている方が多いようです。	各居室には洗面台や木製ベッド、タンス、チェストを備え付けているほか、利用者が居室で居心地良く過ごせるよう、こだわりのある物や必要な物等の持ち込みがあり、その方に合った居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝食前の挨拶で日にちの確認ができるよう、ホール内には手作りのカレンダーがあります。また、新聞を読む利用者さんは、得た情報を職員や他の利用者さんに教えてくれています。いつまでも歩行ができるように歩行訓練をしており、心身とも豊かに生活できるように支援しています。		